

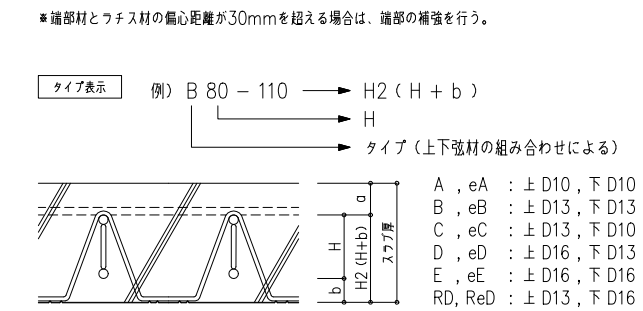
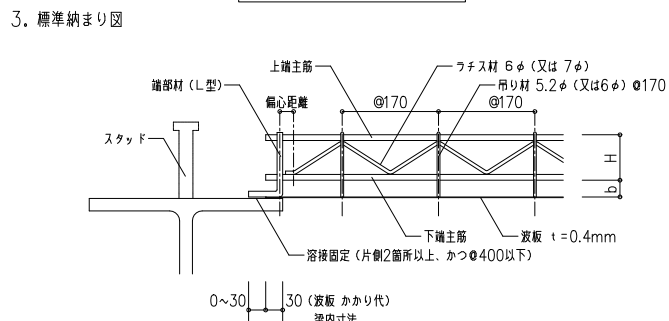
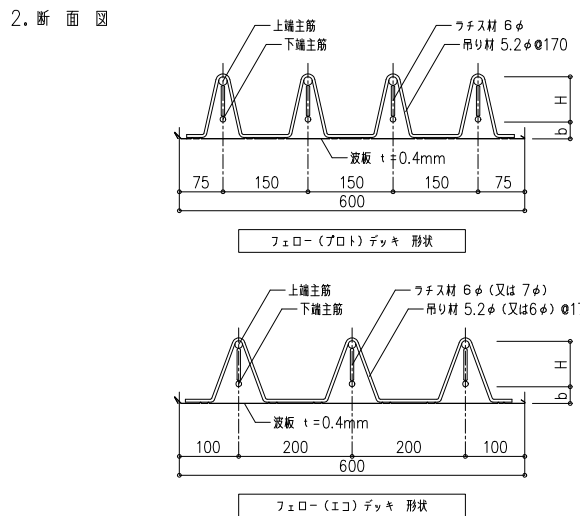
フェロー（プロト・エコ）デッキ標準図（鉄筋トラス付捨て型枠床版工法）

（一財）日本建築総合試験所
（GBRC性能証明 第22-13号）

標準納まり図 < S造 >（1方向）

<お問合せ先> TEL : 03-3580-2551
(株) 東京富士昭 FAX : 03-3580-2552 2022年10月11日 改定

1. 工法の概要
工場で捨型枠と床用鉄筋（主筋方向のみ）を一体化して生産された床構成材を現場にて架組に敷き並べる。その後、主筋連結筋及び配力筋を配置し、現場打ちコンクリートを打設して床版を構築する工法である。



5. 施工手順及び留意事項

(1) 搬入・荷揚げ・仮置
・荷揚げは2点又は4点吊りとし、ハゼの保護に留意し、スリング(布帯)等に荷揚げする。
・敷き込み方法に合わせて、ハゼ方向を確認し仮置する。

(2) 取付
・割付図の施工順序により、1枚目より順次取付する。
・ハゼが濡れている時は、シノ等で修復し、確実にハゼかけを行う。
・デッキの固定方法は、S造の場合端部材をアーク溶接にて架に固定し、固定位置は幅方向については1枚(600mm)に対し片側2ヶ所以上、かつ400mm以下とする。
・柱廻り・梁斜め部は、波板・鉄筋を切断し、端部材(L型筋)を復旧する。復旧の際に端部材とフチ材の端部の偏心距離が30mmを超える場合は端部の補強を行う。
・幅方向の調整は、カット製品、又は調整板にて行う。
・圍仕切壁等のある場合は、波板のみ切断する。

(3) 梁上の上端主筋連結(定着)筋
・重ね継手長さはL1以上、定着長さはL2以上とする。

(4) 上端配力筋の施工
・重ね継手長さはL1以上、定着長さはL2以上とする。
・結束は600mm以下を標準とする。

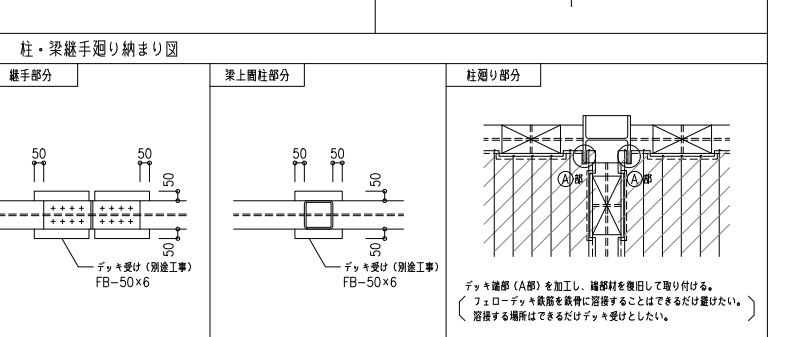
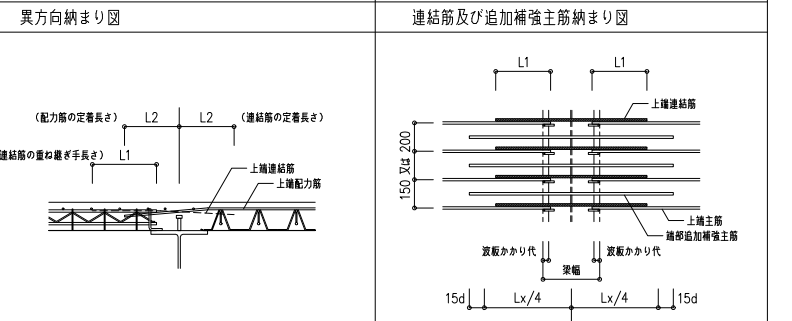
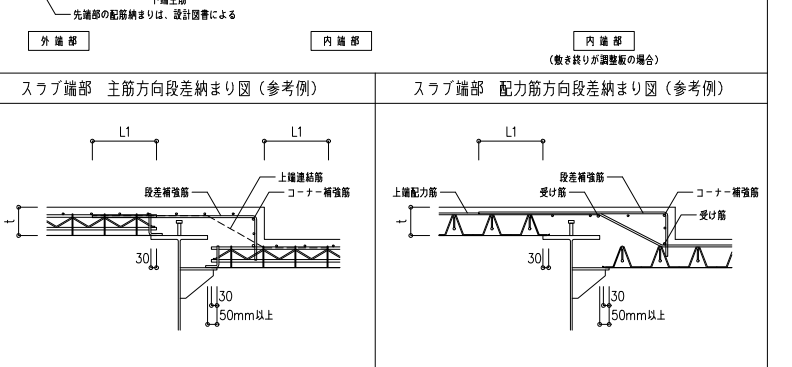
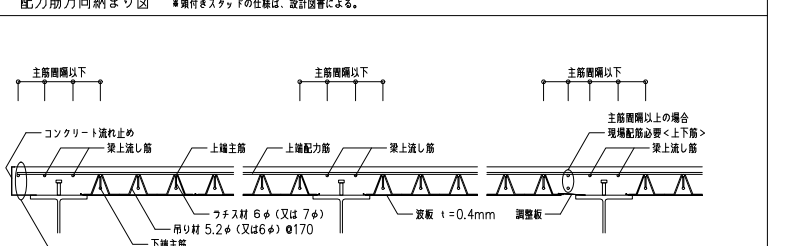
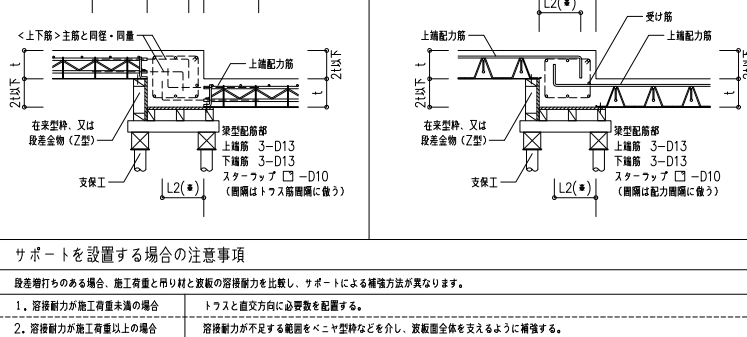
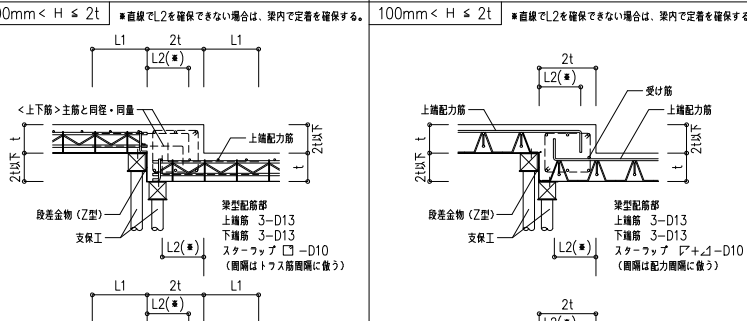
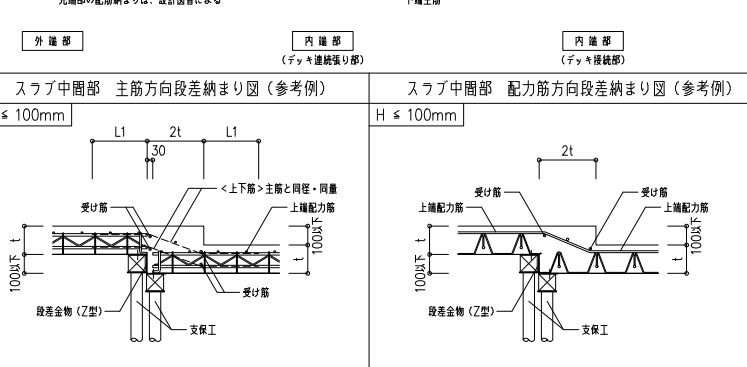
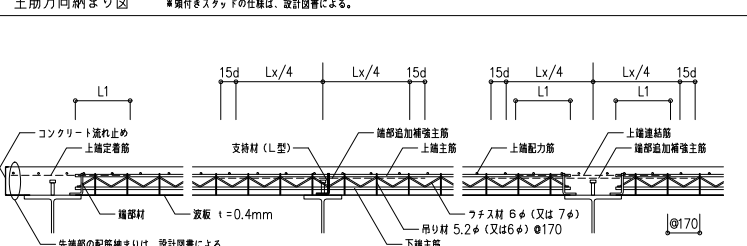
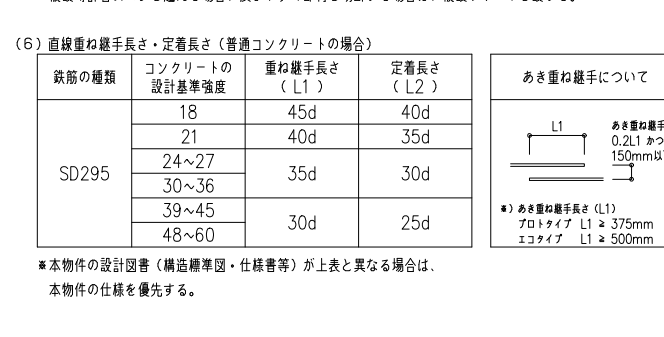
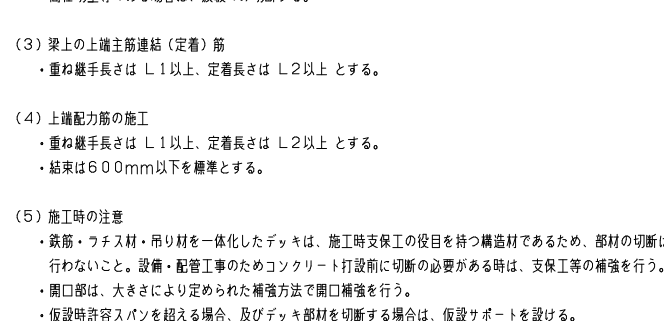
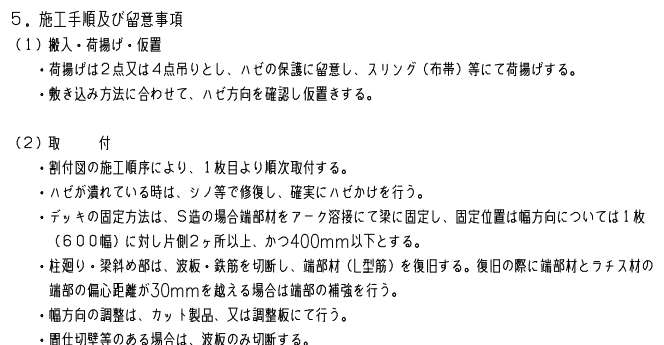
(5) 施工時の注意
・鉄筋・フチ材・吊り材を一体化したデッキは、施工時支保工の役目を持つ構造材であるため、部材の切断は行わないこと。設備・配管工事のためコンクリート打設前に切断の必要がある時は、支保工等の補強を行う。
・開口部は、大ききにより定められた補強方法を開口補強を行う。
・仮設時許容スパンを超える場合、及びデッキ部材を切断する場合は、仮設サポートを設ける。

(6) 直線重ね継手長さ・定着長さ(普通コンクリートの場合)

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度	重ね継手長さ(L1)	定着長さ(L2)
SD295	18	45d	40d
	21	40d	35d
	24~27	35d	30d
	30~36	35d	30d
	39~45	30d	25d
	48~60	30d	25d

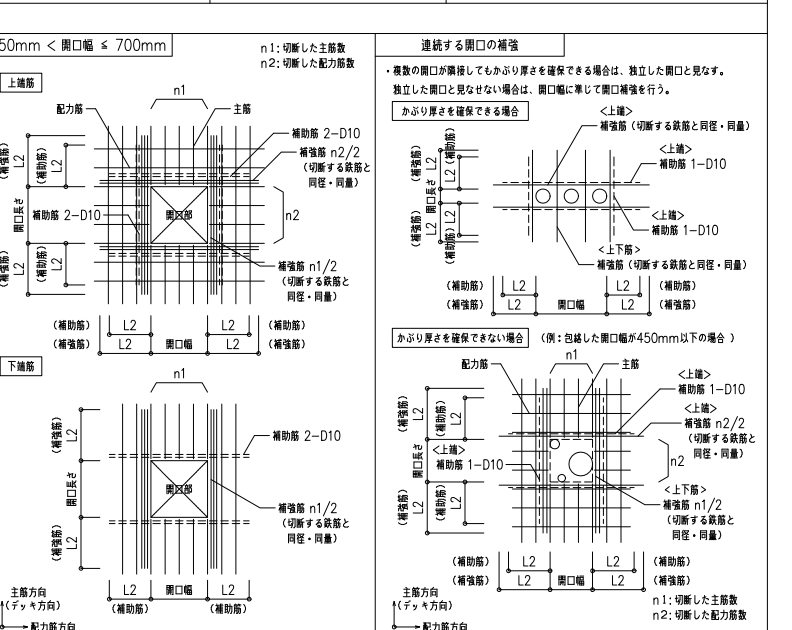
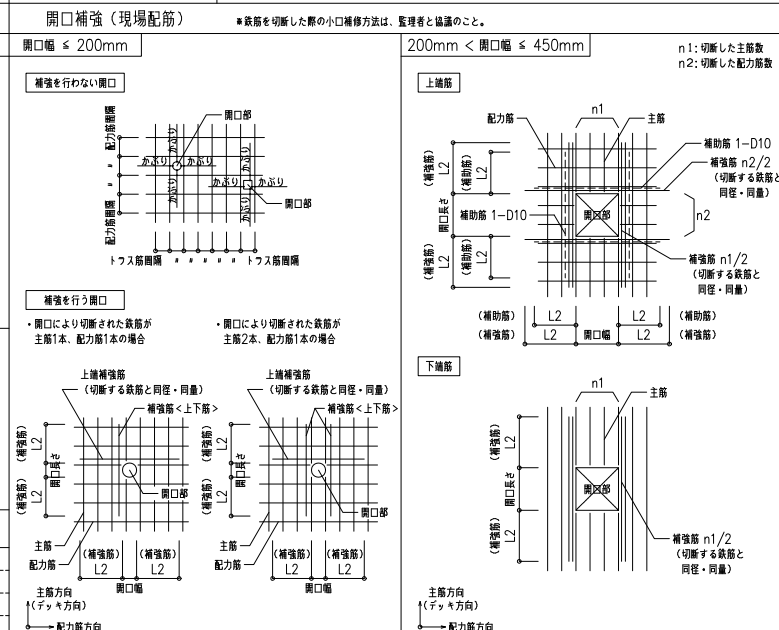
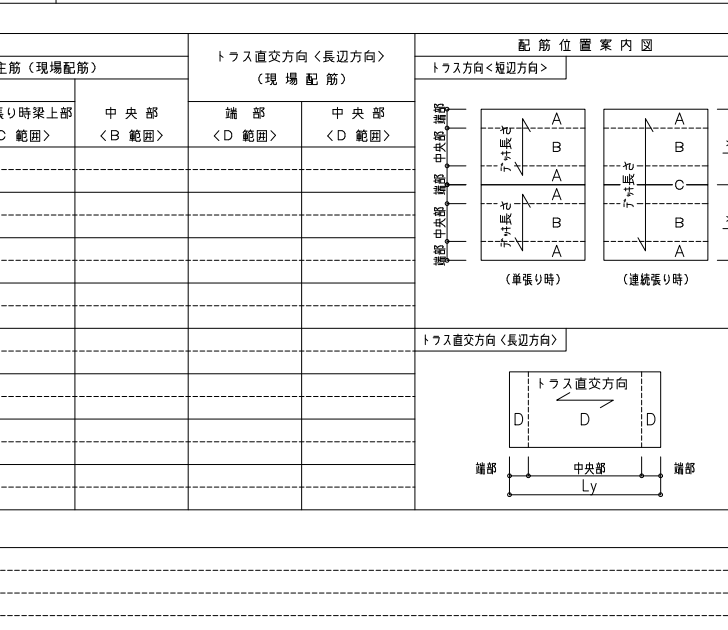
あき重ね継手について
L1: あき重ね継手 0.2L1 かつ 150mm以下
L2: あき重ね継手長さ(L1) プロトタイプ L1 ≧ 375mm エコタイプ L1 ≧ 500mm

※本物件の設計図書(構造標準図・仕様書等)が上表と異なる場合は、本物件の仕様を優先する。



フェロー（プロト・エコ）デッキ スラブリスト

符号	スラブ厚(増打厚)	デッキタイプ	位置	製品	トラス方向<短辺方向>			トラス直交方向<長辺方向>(現場配筋)		配筋位置案内図	
					追加補強主筋(現場配筋)	端部	中央部	端部	中央部	トラス方向<短辺方向>	トラス直交方向<長辺方向>
			上端筋		デッキ接続部<A範囲>	連続張り時梁上部<C範囲>	中央部<B範囲>	端部<D範囲>	中央部<D範囲>		
			下端筋								
			上端筋								
			下端筋								
			上端筋								
			下端筋								
			上端筋								
			下端筋								
			上端筋								
			下端筋								
			上端筋								
			下端筋								



特記事項

設計・監理	株式会社 東京富士昭
-------	------------

工事名称

図面名称

フェロー（プロト・エコ）デッキ標準図

縮尺

1:5
1:20

図番

1

縮尺

1:5
1:20

図番

1